

特集

命を救うボランティア

献血に行こう

村上市、献血者数県内20市中

最下位

平成26年度
献血バス1台
当たりの

なすたや
おやげねちゃ

衝撃の事実が判明しました。新潟県赤十字血液センターによれば、近年、村上市の献血バス1台当たりの1日の献血者数が、県内20市の中で下位に低迷しているとのこと。平成26年度は、20市中最下位。なんと「鮭・酒・人」の部分が20市の下位になっているこの事実。この原因は、市の広報不足が大きな要因と考えられます。



献血とは？

献血とは、病気やけがなどで輸血を必要とする患者さんのために、健康な人が血液を提供するボランティアです。輸血に使われる血液は、みなさんの善意の献血により支えられています。

なぜ血液が必要なのでしょう？

① 1日約3千人

この数字は、輸血を受けている患者さんの数です。毎日、これだけ多くの患者さんが、血液を必要としているので。

② 人工的につくれない

現代の医療技術は、どんどん進歩しています。しかし、血液はいまだに人工的につくることはできません。そのため、「献血」によってたくさんの人から血液を集めています。

③ 長期保存ができない

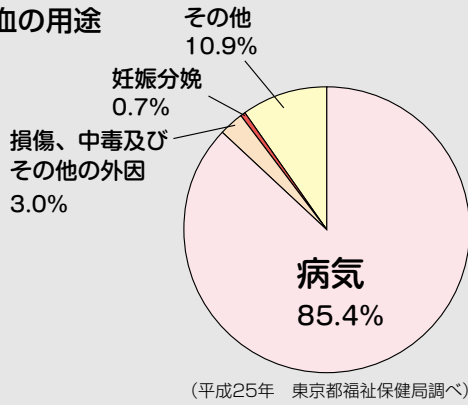
血液は生きてきた細胞の集まりですので、長期保存ができません。いつでも患者さんに血液を届けられるように、毎日新しい血液を確保しておく必要があります。

④ 最多はがん治療

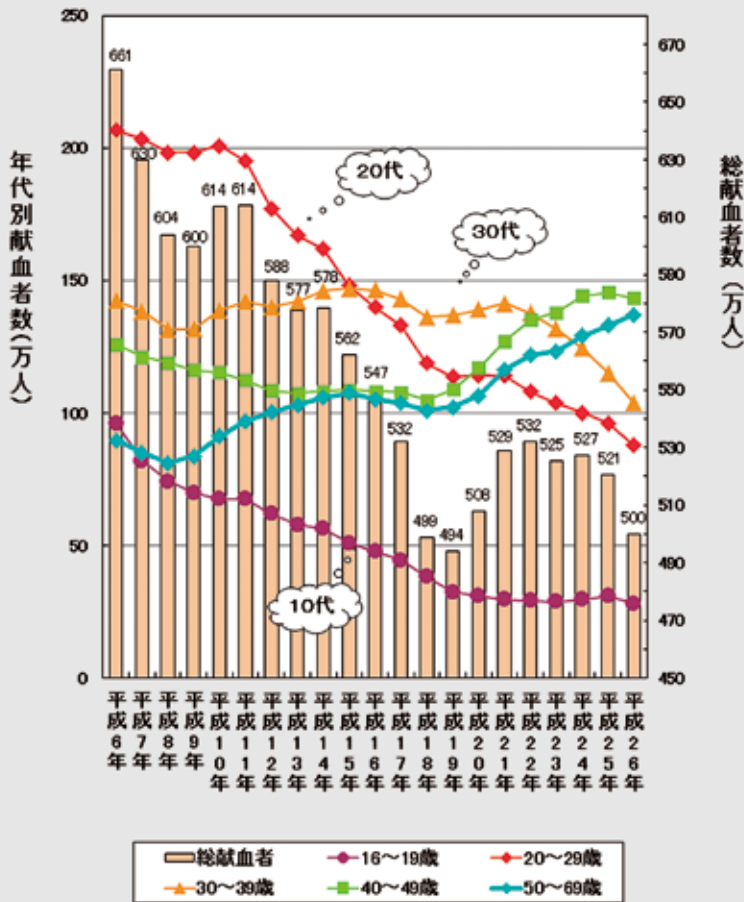
輸血はがん治療に使われるので



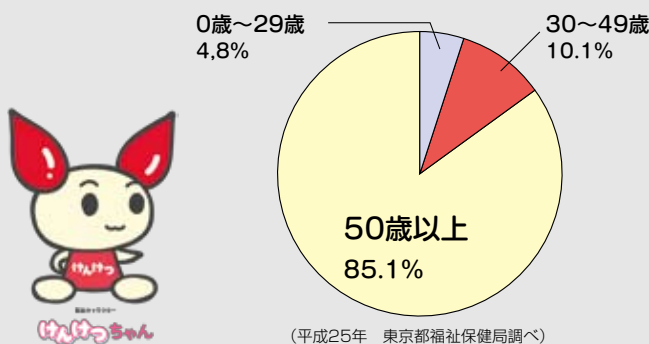
【図1】 輸血の用途



【図2】 献血者の推移



【図3】 輸血を受ける人の年齢別割合



しょうか。一般的に交通事故などで大けがをしたときに使われるイメージがありますが、実際には約85%が病気の治療に使われており、大半を占めるのが、がん治療です。けがの治療は、全体の約3%程度です(図1)。主にこのような病気の治療で、血液は常に必要とされています。

献血者数は不足している？

献血への協力者数は、平成26年度は全国で1年間に約499万人(延べ数)で、減少傾向にあります。さらに世代別で見ると、この10年間で10代・20代・30代の献血者数が3割以上も減少しています(図2)。

県内の献血者数は？

一方で、輸血を受ける人の約85%は、25年度までは大きな増減は見られません

50歳以上です(図3)。今後さらに高齢化が進むと、輸血を受ける人の割合がますます増加すると予想され、輸血を必要とする患者さんに血液が届けられない事態になりかねません。

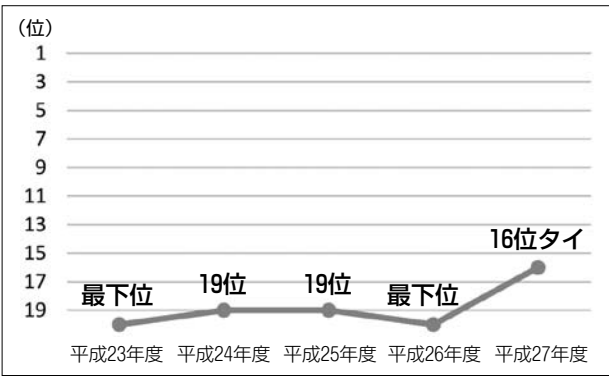
県内における献血者数の状況は、平成25年度までは大きな増減は見られません。しかし、平成26年度に対前年度比較で約4千人が減少し、平成27年度では、さらに約4千人が減少しています。現在は、県内で必要とする血液量を県内の献血で賄うことができていますが、このまま減少傾向が続くと、県内の献血だけでは必要とする血液量を賄うことができない状況になることが考えられます。

じじが問題、市の献血者数

村上市においても、毎年献血バスによる献血を実施していますが、県内の他市町村と同様に近年、献血者数は減少傾向にあります。

市の献血バスにおける献血者数は、平成25年度で713人、平成26年度は686人、平成27年度は647人と年々減少しています。献血者の減少は、人口減少などの要因もありますが、献血バス1台当たりの一日の献血者数は、いずれの年度も県内20市で下位となっています。(図4) この現状を改善するため、献血バス1台あたり1日40人の献血者数を目標としています。

【図4】村上市の献血者数の県内20市中の順位 (献血バス1台当たり)



【図5】献血基準 (年齢・体重)

種類	年齢		体重	
	男	女	男	女
200mL 献血	16～69歳		45kg以上	40kg以上
400mL 献血	17～69歳	18～69歳	50kg以上	

献血は16歳からできる

男女とも16歳から64歳まで献血することができます。また、60歳から64歳の間に献血経験がある人は69歳まで献血することができます。(図5)

どれくらい献血すればいいの

病院で必要とされる輸血用血液の約95%は400mL献血となっています。それは、できるだけ少人数から集められた血液の方が、副作用のリスクが下がり、患者さんの身体への負担も軽いとされています。

るからです。

200mL献血は、体の小さい幼児などの輸血に使用されますが、その必要数は少なく、年齢制限で200mL献血しかできない16歳から17歳の献血で足りている状況です。



その一方、400mL献血は病院で必要とされている数を十分に確保できていない状況です。

このため、献血基準を満たす人には、ぜひ、病院からの需要が高い400mL献血にご協力をお願いします。

大切な命を救う献血

日本赤十字社の試算によると、少子高齢化が進み、このまま献血者の減少傾向が進むと、平成39年度には約85万人の献血者が不足するとされています。

そのため、将来の献血を支える若年層献血者の確保は必要不可欠なものとなっています。

現在、献血は16歳からできます。18歳(男性は17歳)になれば400mL献血もすることが出来ます。

16歳の記念に献血を！高校卒業の記念に400mL献血を！ぜひ、家族・お友達を誘って献血してみたいかがでしよう

か。

献血しながら思い浮かべてください。自分の血液で大切な命が救われていることを。献血が終わった後で、きっと少し幸せな気持ちになるはずです。

献血に行こう

市内には、血液センターや献血ルームがないため、市内で献血をする場合は、献血バスをご利用ください。献血バスの日程は、市報お知らせ版に掲載するほか、市ホームページにも掲載していますので、ご確認ください。

次のページでは、はじめての献血をする消防士に密着。献血の流れを追ってみましたので参考にしてください。

今月の献血バスの予定

6月8日(水)
村上信用金庫本店
午前9時30分～正午
6月20日(月)

新潟リハビリテーション大学
午前10時～11時
午後0時15分～3時30分

※直接会場にお越しください。
ぜひ、献血にご協力をお願いします。

【引用・参考文献】

- 厚生労働省「けんけつHOP SITE」
- EP JUMP
- 政府広報オンライン「お役立ち記事」



初めての献血

緊張しています。
頑張ります。



1 問診への回答

献血者の健康状態などをチェックするための「問診回答システム」。操作はタッチパネルだから簡単です。

稲葉吉哉：消防士2年目の21歳
趣味はサッカー。最近、本格的に自転車を始めた。
パイナップルが大好きな彼が初めての献血に挑む！

2 問診/血圧測定

血圧の測定と医師の問診。心配ことは事前に質問することができます。

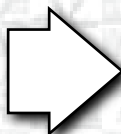


いよいよ、献血バスに乗り込みます

3 ヘモグロビン測定/血液型判定



血液型の事前判定とともに、ヘモグロビン測定で貧血の心配がないか確認します。血液の状態もわかります。



およそ30分くらいで、思ったよりも時間がかかりませんでした。皆さんもぜひ、献血にチャレンジしてみましょう！



今日のランチ何かな



リラックス、リラックス

5 採血カードの受け取り

最後に今回の献血記録と次回の献血できる日などが印字された献血カードを受け取って終了です。

4 採血

ここで、いよいよ採血。採血針や採血バッグは毎回新しいものを使いますので心配無用です。

●問い合わせ 保健医療課健康支援室 ☎53-2111 (内線264)